

162.肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬と血管新生阻害薬併用療法（アテゾリズマブ+ベバシズマブ）の治療効果および有害事象に関する研究

研究の目的と方法

2020年9月より切除不能肝細胞癌の一次治療として保険診療可能となった免疫チェックポイント阻害薬と血管新生阻害薬併用療法（アテゾリズマブ+ベバシズマブ）はこれまでのソラフェニブやレンバチニブをはじめとする分子標的薬に比べ生存期間の延長や腫瘍の縮小効果において高い治療効果を示しています。一方、副作用として、これまでの分子標的薬にない免疫原性有害事象（irAE）の発現が起こることも判っています（IMbrave150試験）。当院では2020年12月より切除不能肝細胞癌に対して本治療を行っていますが、自施設での症例に対して臨床的解析を行い、治療効果と有害事象を明らかにすることを目的とします。

当院の電子カルテシステムから画像検査および検体検査（血液および尿検査）項目を抽出し、匿名化された状態でデータベースを構築し、各種解析を行います。研究期間は 2020年12月1日～2023年11月30日です。

本研究の参加について

2020年12月より国立病院機構熊本医療センターにおいてテセントリク+アバスチン（アテゾリズマブ+ベバシズマブ）治療を受けた患者様

この研究は、国立病院機構熊本医療センターでテセントリク+アバスチン（アテゾリズマブ+ベバシズマブ）治療を受けた患者様の治療効果と有害事象（副作用）を解析することにより、患者様に病状に応じた最適な医療を提供することを目指すためのものです。

情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって研究に関する事項を公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター：電話番号096-353-6501 消化器内科

研究責任者 杉和洋